

Rooftop Addititon

～千葉大学建築学科棟再生案～



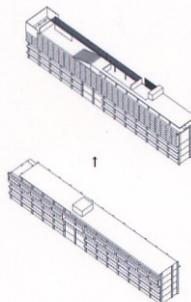
■CONCEPT

今日、多くの千葉大学内施設は構造的・機能的に老朽化してきており、改修・増築・新築の必要性を増してきている。また少子化に伴い、学生を引き付ける魅力的な学習環境を整えることの重要性が高まっている。

そのような動きの中、計画対象地を、工学部建築学科棟とした。千葉大学の工学部棟の連なりは、典型的な南面配置であり、機能主義的な白い箱型建築の集積である。ここには、近代建築が可能にしたフラットな屋上面が平行に繋がっている。今回、この使われていない屋上空間の再利用による学科棟の再生を試みた。

【Rooftop Addition】

ここ建築学科棟には最上階の増築により、既に二つの屋上面があり、それらは少しのズレをもって存在している。ここではさらにペントハウス面と同レベルに3番目の屋上面を新たに計画し、屋上面をレベル差のある憩いの場へと変換することを試みた。それに伴って、4階製図室と新たな屋上面を繋ぎ、そして南面のファサードのイメージを一新させ、建築学生のためのより良い創作環境を演出する。



AFTER

KEYWORD

- ・3つの屋上空間の有効利用
- ・増築によって生じたズレを利用
- ・製図室の環境改善
- ・ファサードイメージを一新



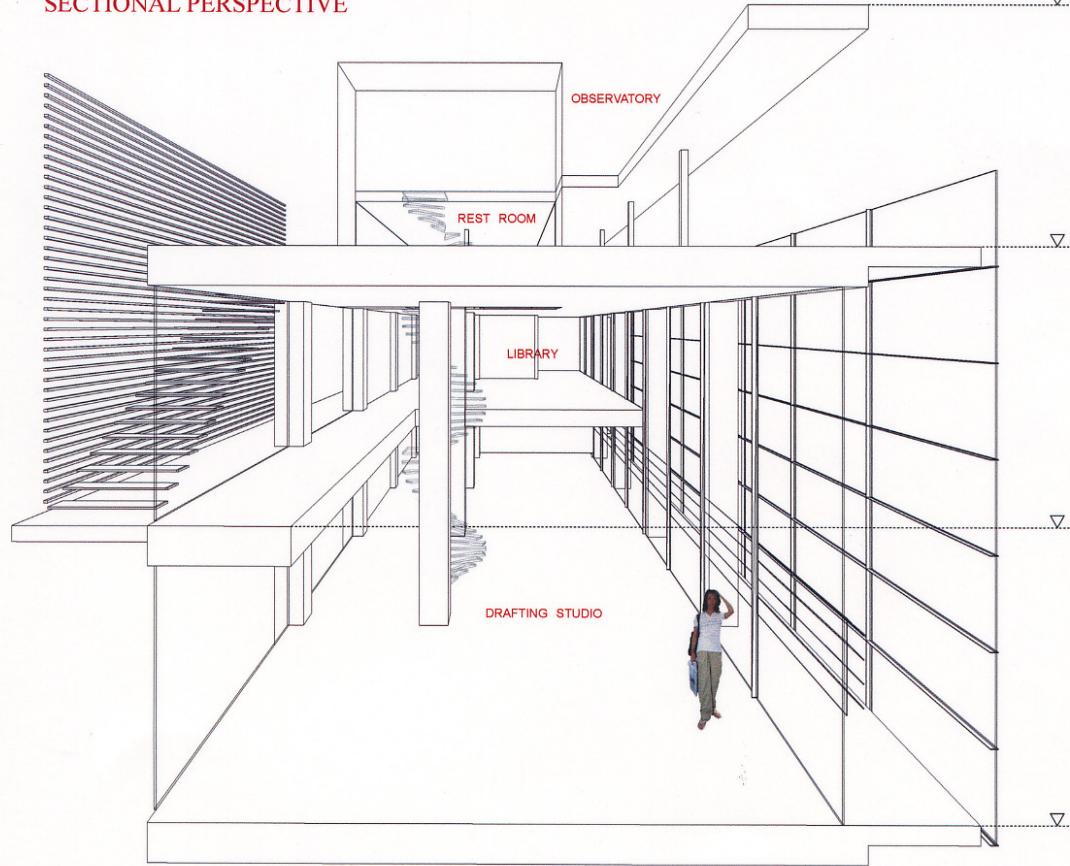
鳥瞰模型



配置図



SECTIONAL PERSPECTIVE



▽ RE. (PLANNED) ROOFTOP

▽ 6F. (EXISTING) ROOFTOP

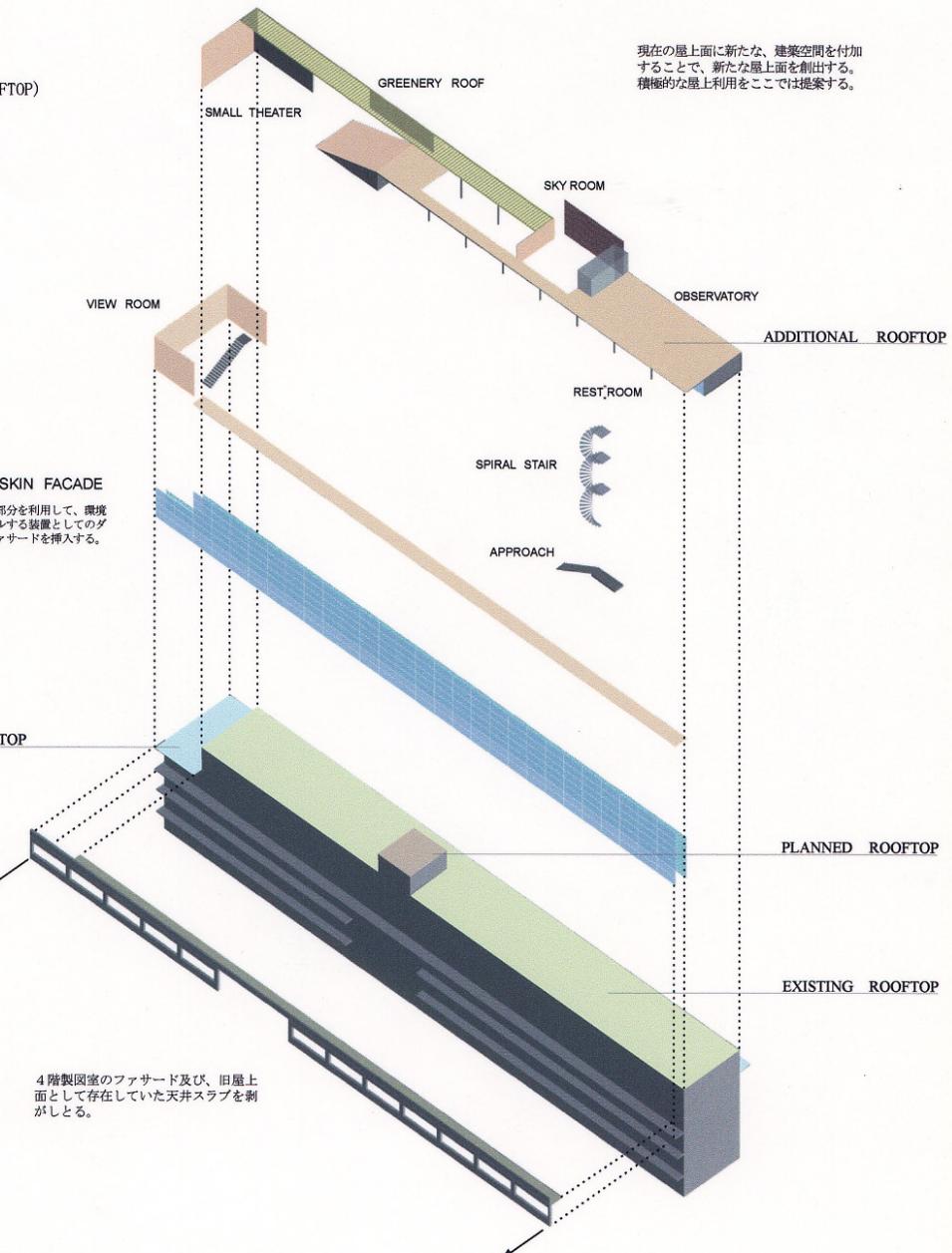
▽ 5F

▽ 4F

■新たな製図室環境の創出

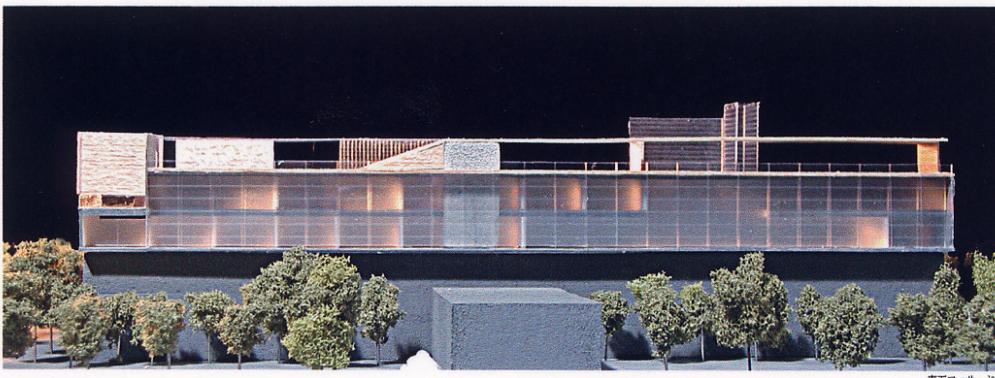
本計画では、4Fに現存する製図室の環境の改善をも試みている。4F部分の突出部分を利用してダブルスキンのファサードを新たに設け、光溢れる明るい環境を創出すると共に、熱負荷を軽減しつつ、緩やかに空気層をコントロールできる空間を目指んだ。又一部既存5Fのフロアーを抜取ることで開放的な吹抜け空間を演出している。この新たな製図室を、垂直に新たに付加された屋上スペースと繋げ、建築学生にとってより豊かな製図室の環境を生み出した。

製図室現況



現在の屋上面に新たな、建築空間を付加することで、新たな屋上面を創出する。
積極的な屋上利用をここでは提案する。

EXPLDED ISOMETRIC

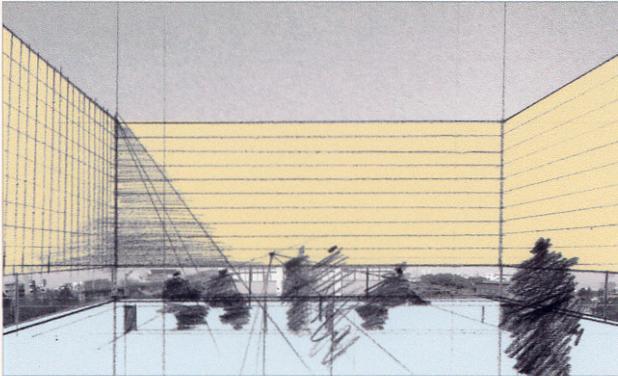


南面ファサード模型

4階製図室のファサード及び、旧屋上面として存在していた天井スラブを剥がしとする。

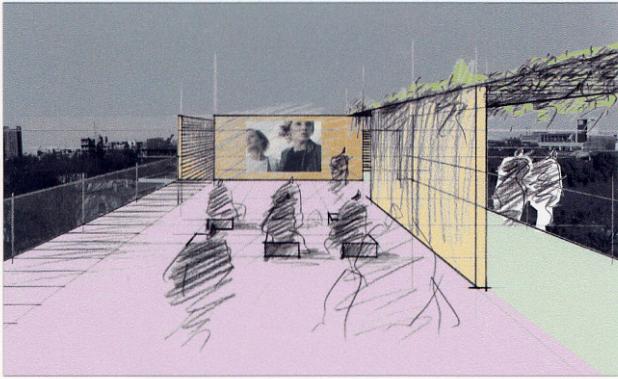
VIEW ROOM

既存の5階屋上テラスに水平なビューを持たせるように壁をつけることで、キャンバスを眺めながら、くつろげるスペースを生み出す。座った時に視界が開けるように開口部の高さを調整している。



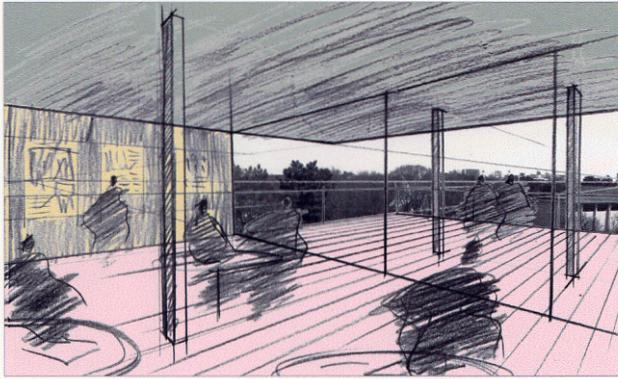
SMALL THEATER

使われていなかった5階の屋上に出られるようにし、壁を設け、また建物中央のエレベーターのペントハウスに向かって学生たちが座れるよう階段を加えることで、屋外でのプレゼンテーション活動なども可能な小さな屋外シアターが生まれる。



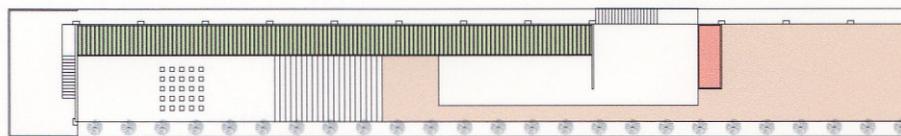
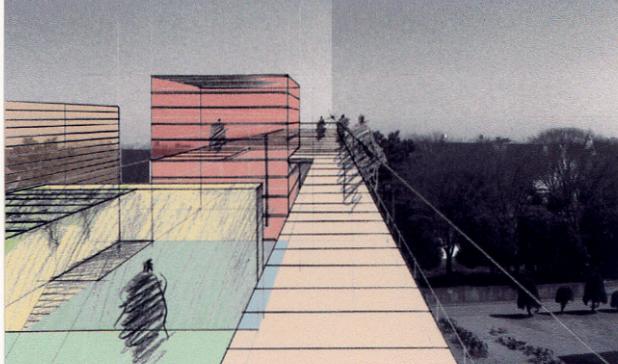
REST ROOM

5階の屋上に、1枚屋根が乗せられ、学生の休憩や交流の場所が生まれる。ここには製図室からエレベータや螺旋階段で直接アクセスできる。学生の作品展示ギャラリーなどにも利用できる。

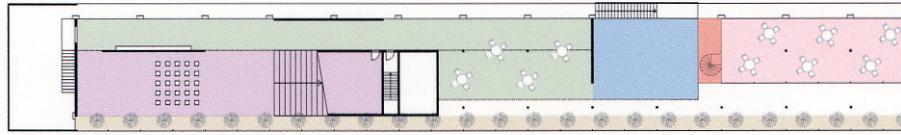


OBSERVATORY

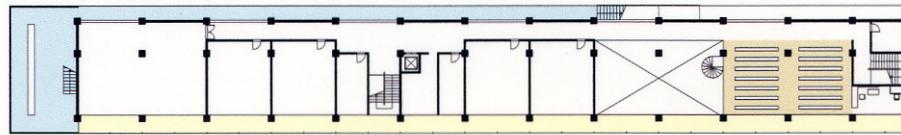
周辺の風景を眺めるための展望スペース。水平な屋根を架けることで、さらにその上に床面が現れる。第5のファサードである屋上空間を積極的に利用したリノベーション。



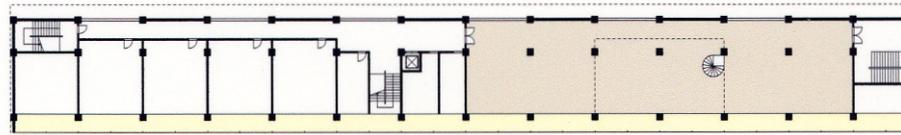
ROOF PLAN
■ OBSERVATORY
■ GREENERY
■ CIRCULATION



6TH FLOOR PLAN
■ SKY ROOM
■ REST ROOM
■ SMALL THEATER
■ CIRCULATION
■ SUN ROOM
■ WOOD DECK

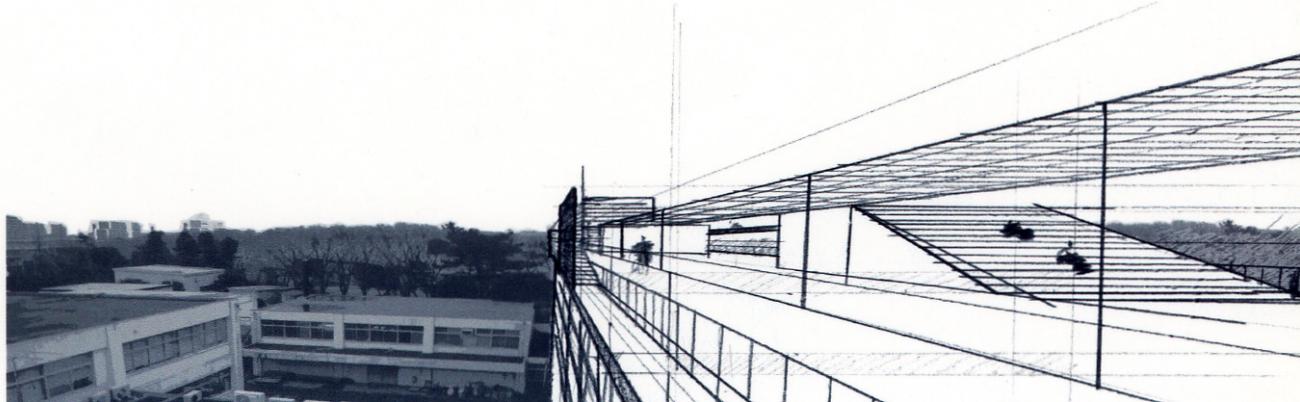


5TH FLOOR PLAN
■ VIEW ROOM
■ LIBRARY
■ DOUBLE SKIN



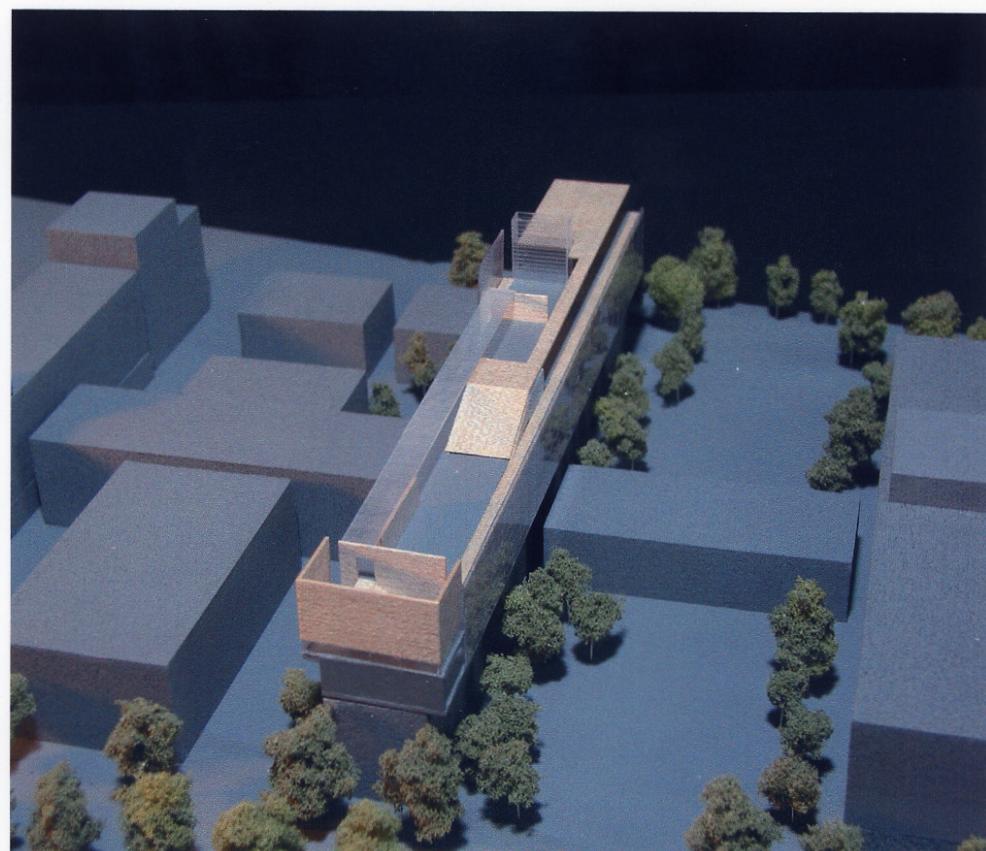
4TH FLOOR PLAN
■ DRAFTING STUDIO
■ DOUBLE SKIN

PLAN SCALE 1/500





改修後ファサードイメージ



鳥瞰模型写真

